

先日、なじみの理髪店のご主人が「昨日スーパーでレジに並んでいたら、隣のレジの店員から『おじいさん、こちらが空いたのでどうぞ』と、おじいさん呼ばわりされ気分を害した」と話していました。同様の話が新聞の投稿欄に掲載されていました。その人も店員からおじいちゃんと呼ばれショックを受けたそうで、「傘寿さんじゆが近く高齢者に間違いはないが、客におじいちゃん呼ばわりはないだろう。店では『お客さん』が基本だと思う」と結んでいました。

国語辞典でおじいさんを調べると『祖父（年を取った男性）を親しみを込めて呼ぶ言葉』と書かれていました。店員は辞典の使い方であり、親しみを込めて呼んだものと思いますが、相手にはその気持ちは伝わらなかつたようです。それどころか反対に、反発を買ってしまいました。言葉は時と場所、場合によって受け止め方が違ってくることがあります。電車などで、善意で高齢者に席を譲ろうとしたが不快な思いをさせてしまったという話も聞きます。年を重ねても他人に年寄り扱いされたくない、しかも足腰を鍛えたいと思っている場合に起こりがちなケースです。これらのように、良かれと思ってした行為でも相手を傷つけてしまう可能性があります。相手への思いやりも、相手の立場を尊重して本当のものになり

ます。相手の気持ちを考えずに自分の気持ちを押し付けてしまうと、相手の人権を侵害することにもなりかねません。人には、それぞれ個性があり、ものの見方や考え方も違います。どんな言葉を使おうかと考えるとき、相手の立場や気持ちを考える優しさの扉が開かれるのではないのでしょうか。そんな日々の行いがお互いを尊重し、暮らしやすい社会につながっていくのではないかと思います。

